



## オルタナティブ 文明論

田坂広志

### 「無限成長経済」から 「地球環境経済」への進化

前回まで、資本主義の経済原理に起こっている第四のパラダイム転換、すなわち、「享受型経済」から「参加型経済」へのパラダイム転換について述べてきた。

では、第五のパラダイム転換は、何か。

「無限成長経済」から「地球環境経済」へのパラダイム転換である。

これまでの経済は、「無限の空間」と「無限の資源」の幻想を前提とした「無限成長経済」と呼ぶべきものであった。そのことは、際限なきGDP成長を求め続ける政府の姿や、際限なき増収増益を求め続ける企業の姿に象徴されている。

しかし、地球環境問題に直面したことによって、「無限成長」が幻想であることが明らかになり、これからの時代には、経済システムを、「有限の空間」と「有限の資源」を前提とした「地球環境経済」と呼ぶべきものへと転換していかなければならないことが、強く認識されるようになった。

しかし、そのことの必要性は、多くの識者が理解しているにもかかわらず、残念ながら、従来の経済学は、この新たなパラダイムとしての「地球環境経済」を提唱することはできていない。

それは、なぜか。

「地球環境経済」へのパラダイム転換を進めていくためには、従来の経済学で使われてきた言葉の定義を、根本から再定義しなければならないからである。例えば、「経済」とは何か。「成長」とは何か。「資本」とは何か。「豊かさ」とは何か。「幸せ」とは何か。

従来の経済学において常識のごとく使われてきた、これらの言葉を、再定義すること。そこからしか、新たな経済としての「地球環境経済」を生み出すことはできない。

例えば、「経済」や「成長」という言葉を、単に「マネタリー経済」(貨幣経済)だけの成長ではなく、貨幣で評価できない「ボランタリー経済」(自発経済)や「知識経済」をも含めた成長として再定義すること。

例えば、「資本」や「豊かさ」という言葉を、単に「貨幣資本」で評価される豊かさだけでなく、「知識資本」「関係資本」「信頼資本」「評判資本」「文化資本」「共感資本」などの、貨幣で評価できない資本をも含めた豊かさとして再定義すること。

例えば、「幸せ」という言葉を、単に「現在の世代」の幸せだけでなく、「未来の世代」の幸せを含めたものとして再定義すること。

そうした形で「経済」「成長」「資本」「豊かさ」「幸せ」といった言葉の新たな定義を定め、その定義に基づいて、新たな経済の思想を創出していくこと。そのことを抜きにして、「地球環境経済」へのパラダイム転換は、決して実現しないであろう。

では、そのパラダイム転換の先に見えてくるものは、何か。それは、また次号。

たさか・ひろし 81年東京大学大学院修了。工学博士。87年、米国バテル記念研究所客員研究員。90年日本総合研究所の設立に参画。取締役・創発戦略センター所長等を歴任。00年多摩大学大学院教授に就任。同年シンクタンク・ソフィアバンクを設立。03年社会起業家フォーラムを設立。08年世界経済フォーラム(ダボス会議)のGlobal Agenda Councilのメンバーに就任。著書に「目に見えない資本主義」「未来を予見する5つの法則」など60冊余。



Illustration : Hattaro Shinano